


観光社会資本の事例

テーマ	落ち着いた情緒あるたたずまい、ひがし茶屋街	
【施設の状況写真】		
		
お茶屋建築の家々が軒を連ね、藩政末期以来の茶屋町の特徴を残した落ち着いた情緒ある街並みである。	夕暮れ時には、軒灯がともる茶屋から三味線や太鼓の音がこぼれてくる風情ある茶屋町である。	
【施設の利用写真】		
		
両側にキムスコ(木虫籠)と呼ばれる美しい出格子の家が連なる石畳の道を散策する観光客。	左手に茶屋の裏玄関、右手に小規模な茶屋が建ち並ぶ一番丁。道幅も細く裏通りの雰囲気が残されている。	
【観光資源としての利用状況】		
金沢市では、藩政時代からの伝統文化や伝統工芸、古い家並みや土塀をめぐる武家屋敷などの昔の城下町の面影と、長い歴史に培われてきた個性を生かしたまちづくりの実現を目標としている。ひがし茶屋街周辺には、浅野川大橋や梅ノ橋、主計町等の情緒ある観光スポットが点在し、この付近一帯が散策するには絶好のエリアとなっている。		
五木寛之著「朱鷺の墓」の舞台としても知られている。		
平成13年11月には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、公私協働のもとに街並み景観を保全する機運はますます高まっている。		

テーマ	落ち着いた情緒あるたたずまい、ひがし茶屋街
【社会資本の基礎データ】 ○名称 ひがし茶屋街 ○所在地 石川県金沢市東山 ○事業名 東山みて歩きコース修景整備事業 ○事業主体 金沢市 ○事業期間 平成4年度～平成5年度	
【社会資本の役割・効果】 ○観光資本の役割 ひがし茶屋街が位置する東山地区は、城下町みて歩きコースに指定されており、観光スポットとしてたいへん人気がある。そうした中、一般車両の地区内への流入を制限して歩行者優先とすることで、観光客の交通安全の確保と散策する環境の質の向上を図っている。 ○景観形成の効果 平成4年度から平成5年度の修景整備事業では、路面の整備、街路灯の設置、電線類の地中化等を行っており、舗装材の選定等については、歴史的なまちなみ景観に調和するように配慮している。 平成17年6月から景観法が施行されたのに合わせて開かれた「日本の景観を良くする国民大会」では、ニュースキャスターの草野満代さんが理想の街並みに金沢市の茶屋街を挙げ、「伝統的な美意識が暮らしに受け継がれている」とコメントしている。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 金沢市観光協会 http://www.kanazawa-kankoukyoukai.gr.jp/ 金沢市役所 http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/	